安永六酉夏

納涼各詠

夜なかまてこゝろよく月に涼みかな　交之

月代にかゝるもなつかしゝ夕涼み　以徐

我ともに見る風もかな扇や夕涼　緑也

せきる方に遊びとり木の船涼　桃之

窓ちかく釣する西の涼みかな　梧井

くれかゝるや田に飛ぶ蛍夕涼　支風

涼風の音に柳のゆふ涼　杉朔

ゆきゝ絶えてひとよき涼み哉　家山

涼しさに眺めて帆掛船　龍有

新涼や橋の下なしゆふの涼　呂洲

降しきる雨へあかるく涼みかな　吟之

さしかゝる水の風に涼みかな　其鳴

森入る子と気持よく涼みかな　去帆

手折てこれら門のまへに涼風　墻英

蓬月の入りてもなほしき涼風　石水

我と来て帰るさや夕涼　扇妙

夕薫 陰にしても涼みかな　杜年

青葉のかけや島の下涼　芦鳴

庭に降りて草の露や涼み哉　三扈

実の花やよしとき揚涼　李芳

承知して夜のうちの涼風　石蝶

納涼の吟をひあんして
我も白然は連中と共に
終りに折しの見さして
始りたるき

嘯きしこそ涼しきもの
採れ涼し　寛四

[illegible]